

## 2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

## I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	25 健康科学科	責任者	後藤 孝也	
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	B	
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。				
<<回答>> 昨年度の問題点として指摘があった日々の学習成果に対する意識調査が十分に実施できていない状態が続いている点があるものの、Manaba を利用した科目、小單元ごと的小テストを実施する等の取り組みは継続的に行われている点は評価できる。国家試験の合格率の向上に向けた取り組みもチューター制度として少人数の学生に対してチューター教員を配置し、各教員が工夫して指導しているが、客観的数値として合格率向上が顕著とは言えなかった。				
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。			
★<学位授与方針>（記入してください。） <b>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)</b> 健康科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に卒業の認定を行い、学士(健康科学)の学位を授与する。 <b>1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能</b> (1) 社会人として高いモラルと教養を有し、臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて健康科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。 (2) 臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関する知識や技能を活用し実践的に役立てることができる。 <b>2. 他者との協同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力</b> (1) 臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関する基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を活用し、協同して社会的課題を解決できる。 (2) 今日の健康科学上の様々な課題に対して、臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関連する手法を用いて考察することができる。 (3) 批判的思考(クリティカル・シンキング)を通して自分の意見を論理的に表現することができる。 <b>3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感</b> (1) 健康科学に関する課題や社会動向に常に興味を持ち、主体的・継続的に学修することができる。 (2) 健康科学の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献するために、与えられた課題に対して、さらなる向上心や責任感を持って対処することができる。 <b>4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解</b> (1) 幅広い教養と高い倫理性を備え、グローバルな視野で異文化を理解することが出来る。 <a href="https://www.daito.ac.jp/education/sports_health_science/information/diploma.html">https://www.daito.ac.jp/education/sports_health_science/information/diploma.html</a>			変 更	有() 無(✓)
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。			
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト (大東文化大学の基本方針)、基礎要件確認シート7			
◆学位授与の方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。				
<<回答>> 問題なし。				
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。			
★<教育課程の編成・実施方針>（記入してください。） <b>教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)</b> 健康科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。そして、本学の教育理念に基づき、臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野のスペシャリストを育成する。 <b>1. 教育内容</b> (1) 基礎教育科目・語学で、必修科目の基礎生物学 A、基礎化学 A、フレッシュマンセミナーA/B、健康科学概論			変 更	有() 無(✓)

<p>などのリメディアル科目において、健康科学を学ぶために必要な学習スキルを学び、生命倫理学、英語 A/B、情報科学を通じて、生命の尊厳に基づく倫理性、国際性、情報収集力の獲得と社会性を習得させる。</p> <p>(2) 専門教育科目では、健康科学のエキスパートとして科学的な思考力と判断力を養成するための生化学、生化学実習、解剖生理学 A、予防医学概論、環境衛生学、公衆衛生学などの必修科目での講義・実習・演習の履修を通して、健康科学の基礎能力を育成する。</p> <p>(3) 全学共通科目では、多様な学問分野を履修することで幅広い教養を備えた人間性を養う。</p> <p>(4) 臨床検査コースでは、生化学検査学 A/B、生理検査学 A/B/C、病理検査学実習、臨地実習など臨床検査技師国家試験受験資格を取得するのに必須な教科目を含め履修することで、臨床検査に係る学問領域を総合的に学び、専門職種としての知識及び技術を教授する。</p> <p>(5) 健康マネジメントコースでは、栄養学(基礎と応用)、食品科学、健康運動づくりの理論、スポーツ生理学、ヘルスプロモーション概論などの専門科目を通じて、食品・栄養・運動が持つ健康への影響について総合的な知識と理解を養い、食品衛生管理者、食品衛生監視員、健康運動実践指導者をはじめとした国民の健康づくりに貢献する人材を育成する。</p> <p>(6) 理科コースでは、自然科学の基本となる物理・化学・生物・地学の基礎知識を習得し、生化学、生態学、有機化学などの学びから科学系専門職に必要な知識を養うとともに、教科教育法や教職実践演習などを通して、理科教員免許の取得と、教員に求められる力の育成を行う。</p> <p>※ 取得可能資格及び免許:臨床検査技師国家試験受験資格、食品衛生管理者、食品衛生監視員、健康運動実践指導者、第二種作業環境測定士、中学校教諭一種免許(理科)、高等学校教諭一種免許(理科)。</p> <p><b>2. 教育方法</b></p> <p>(1) 1年次においては、全員が基礎教育科目・語学、健康科学の基礎的内容を中心に学び、2年次より各学生の希望進路に沿ったコース選択を行い、専門的知識を修得させる。</p> <p>(2) 主体的な学びを促進するために、専門科目における各種の演習授業・実習授業を通して問題解決型のアクティブラーニングを取り入れた教育を行う。</p> <p>(3) 3年次、4年次においては、少人数制による卒業研究演習、卒業研究の履修を積極的に促進し、インタラクティブな教育を実施する。</p> <p><b>3. 評価方法</b></p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、健康科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測るものとする。</p> <p>(2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価として、各学年学期でコモンルーブリックを活用した個別指導と評価を行う。また、卒業研究履修者においては、作成された卒業論文も評価の対象に含める。</p> <p><a href="https://www.daito.ac.jp/education/sports_health_science/information/curriculum.html">https://www.daito.ac.jp/education/sports_health_science/information/curriculum.html</a></p>	
<p>評価の視点1 <b>【基礎要件●】</b></p>	<p>上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。</p>
<p>評価の視点2 <b>【基礎要件●】</b></p>	<p>上記の方針は、学位授与方針に整合している。</p>
<p>評価の視点3※ <b>【基礎要件●】</b></p>	<p>上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト (大東文化大学の基本方針)、基礎要件確認シート7</p>
<p><b>(DP と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。)</b></p> <p>DP1. (1), (2) → CP1. (1), (2), (3), (4), (5), (6)</p> <p>DP2. (1), (2), (3) → CP1. (1), (2), (3), (4), (5), (6)</p> <p>DP3. (1), (2) → CP1. (2), (4), (5), (6) CP2. (1), (2), (3)</p> <p>DP4. (1) → CP1. (1), (2), (3), (4), (5), (6) カリキュラムツリー参照 B4-88</p>	
<p><b>★項目(2) 4-2DP1 から DP4 について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか (あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。</b></p> <p>以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のもので、なおここでは DP1 のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <p>・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。</p>	
<p>《回答》</p> <p><b>1. DP1 と CP との関係性</b></p> <p>DP1(1)に明示した「臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて健康科学に関する専門知識や技能の獲得」、DP2(2)の「健康科学を実践的に役立てるための知識や技能の獲得については、共に健康科学に関する専門知識・技能の獲得を学位授与方針の一要件としており、CP(1)～(6)に示した以下の内容全てが明確にその目的達成のための具現的教育課程を示している。CP「1. 教育内容」(1)では、「基礎生物学 A、基礎化学 A、フレッシュマンセミナー A/B、健康科学概論 などのリメディアル科目において、健康科学を学ぶために必要な学習スキルを学び」とされとともに、CP「1. 教育内容」(2)において「生化学、生化学実習、解剖生理学 A、予防医学概論、環境衛生学、公衆衛生学などの必修科目での講義・実習・演習の履修を通して、健康科学の基礎能力を育成する」と明示されているように、専門知識を裏付ける基礎学力の涵養を明示している。更に、CP「1. 教育内容」(3)においては、「全学共通科目では、多様な学問分野を履修することで幅広い教養を習得させる」とあり、健康科学の知識や実</p>	

践をより幅広い汎用性の高いものへと導く学びの充実を掲げている。そして、CP「1.教育内容」(4)においては、「生化学検査学 A/B、生理検査学 A/B/C、病理検査学実習、臨地実習などを履修することで、臨床検査に係る学問領域を総合的に学び、専門職種としての知識及び技術を教授する」とあるように、正に臨床検査学に関する専門的知識や技能の獲得を示している。CP「1.教育内容」(5)は、「食品・栄養・運動が持つ健康への影響について総合的な知識と理解を養い」とあるように、健康マネジメント学への知識・技能の追求を明らかにしている。CP「1.教育内容」(6)については、「自然科学の基本となる物理・化学・生物・地学の基礎知識を習得し、生化学、生態学、有機化学などの学びから科学系専門職に必要な知識を養う」とあるように、理科教育への専門的知識・技能の獲得が示唆されている。

## 2. DP2 と CP との関係性

DP2(1)に明示した「健康科学に関する基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を活用し、協同して社会的課題を解決できる」、DP2(2)の「臨床検査学、健康マネジメント学、自然科学の分野を通じて修得した健康科学に関連する手法を用いて考察することができる」、並びに DP2(3)「批判的思考(クリティカル・シンキング)を通して自分の意見を論理的に表現することができる」は、健康科学科での深い学びが、社会課題に対して考察・思考し、科学的エビデンスをとおして判断し、更に一元的な表現に留まらず、論理的に表現することができることを健康科学科の学位授与方針として示している。DP1と同様に CP(1)～(6)に示した以下の内容全てとの整合性を確認することができる。CP「1.教育内容」(1)では「生命の尊厳に基づく倫理性、国際性、情報収集力の獲得と社会性」の獲得を明確にしているが、思考力・判断力の根源的な能力と言える。CP「1.教育内容」(2)に至っては、「専門教育科目では、健康科学のエキスパートとして科学的な思考力と判断力を養成する」と思考力・判断力に直接言及している。CP「1.教育内容」(3)「人間性の涵養」を示している。人格陶冶を目標としているが、深い思考力・高い判断力なくしては自己実現を完遂することができないことは自明の理である。CP「1.教育内容」(4)(5)(6)については、「臨床検査技師(医療人)としての職業性、国民の健康づくりに貢献する人材、教員に求められる力の育成」をそれぞれ明示し、社会人としての資質・能力(思考・判断・表現力)の涵養を示唆している。

## 3. DP3 と CP との関係性

DP3(1)に明示した「健康科学に関する課題や社会動向に常に関心を持ち、主体的・継続的に学修することができる」、DP3(2)の「健康科学の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献するために、与えられた課題に対して、さらなる向上心や責任感を持って対処することができる」ということは、能動的学修態度と社会貢献に対する意欲と使命感の涵養が健康科学科の学位授与方針の一要件であるということを宣言していることでもある。この視点は、専門教育における専門職業的学びによって深まることは明らかであり、CP「1.教育内容」の項目では、(2)(4)(5)(6)との関連性が明らかである。CP「1.教育内容」(2)では、「健康科学のエキスパートとして」、CP「1.教育内容」(4)「臨床検査技師」、CP「1.教育内容」(5)「食品衛生管理者、食品衛生監視員、健康運動実践指導者をはじめ」、CP「1.教育内容」(6)「理科教員」など具体的な職種の列挙が示すとおりである。

加えて、DP3の

## 4. DP4 と CP との関係性

DP4「幅広い教養と高い倫理性を備え、グローバルな視野で異文化を理解することができる」は、建学の精神で示された、本学科に託されたミッションとすることができる。従って、CP 全ての内容が DP4 に帰結する。

### ◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

〈回答〉

教育課程の編成・実施方針の内容について現時点での問題点はないが、新カリキュラムが進行して完成年度になるまでは旧カリキュラムとの混在した状況になる。学生への講義の履修方法や履修登録の間違いなどが生じないように指導していく必要がある。特に資格取得との関係で登録漏れがあると学生にとって不利となるため、分かりやすく説明し、またミスは是正できる履修登録の修正期間も設けて指導をしていかなければならない。

点検・評価項目(3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。 <a href="#">根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス</a>
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。 <a href="#">根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー</a>
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。 <a href="#">根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ</a>
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 <a href="#">根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き</a>
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。 <a href="#">根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9、10</a>
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 <a href="#">根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス</a>
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 <a href="#">根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き</a>
評価の視点8	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。

★項目(3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、[根拠資料](#)（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて、概要を解説してください。

〈回答〉

〈根拠資料〉

25-C4-1 :

<p>健康科学科の3コースにおける基礎的な科目は、高等学校の教科では、生物、化学ということになる。しかしながら、入学生の中には、生物基礎、化学基礎、あるいはどちらかしか履修せずに受験し入学を許可される学生も一定数存在する。そこで、授業並びに正課外リメディアル授業から、初年次教育として基礎知識の補完教育を実施している。1年次生で必修となる「フレッシュマンセミナーA」「フレッシュマンセミナーB」「基礎化学A」「基礎生物学A」「基礎化学・基礎生物学演習」等がそれに該当する。例えば「基礎化学A」のシラバス・授業概要を概観すると、高等学校の化学の内容を復習していることが分かる。</p> <p>★「化学の基礎となる原子・分子の電子配置や化学結合、アボガドロ定数、物質量の概念について学ぶ。特に化学変化を反応式に表し、量的な計算を行えるよう演習を行う。さらに溶液の濃度計算、酸・塩基の反応を中心とした理論化学および化学変化に伴う熱の出入りや反応速度について講義を行う。」</p> <p>また、正課外リメディアル授業については、入学オリエンテーション時に実施した基礎学力テストの結果から、生物・化学についての習熟度を判定し、学生にフィードバック、説明をしたうえで、リメディアル授業への誘導を行っている(但し、希望学生については基礎学力テストの結果によらず参加できる)。尚、指導教員は、高等学校の現職教員にお願いし、学科予算で授業運営している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレッシュマンセミナーAシラバス</li> <li>・フレッシュマンセミナーBシラバス</li> <li>・基礎化学Aシラバス</li> <li>・基礎生物学Aシラバス</li> <li>・基礎化学・基礎生物学演習シラバス</li> </ul>
<p>評価の視点9※</p>	<p>教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き</p>
<p>評価の視点10※</p>	<p>学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ</p>
<p>評価の視点11</p>	<p>学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。</p>
<p>★項目(3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料(該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など)を用いて回答してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>1)1年次配当(必修科目)「フレッシュマンセミナーA」「フレッシュマンセミナーB」の該当シラバスの授業の概要は以下のとおりであり、初年次におけるキャリア教育の要と言える。「初年次教育の一環として、大学生活における基本的な事項についてアクティブラーニングの手法を用いて能動的に学ぶとともに、健康科学科における主体的および自主的な学びを実践するための基礎的能力(スキル)の向上をはかる。また健康科学科で得ることのできる資格や2年次におけるコース選択をはじめ、将来の進路決定に向けてのキャリアデザインについても学ぶ。」</p> <p>また、授業の到達目標についても、以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生活において必要な基本事項を説明できる。</li> <li>2. 健康科学科での学習を円滑に進めるために必要な基礎学力を習得する。</li> <li>3. アクティブラーニングやキャリアデザインを通じて、将来に向けての課題を明確にできる。</li> <li>4. 社会人として必要なマナー等について理解を深めることができる。</li> </ol> <p>2)3年生の「卒業研究演習」、4年生の「卒業研究」では、単に「卒業論文」へ誘うだけでなく、各ゼミ担当教員の専門とする学会への参加・発表、地域貢献活動への参加、地域貢献活動の企画、国際交流活動への参加など幅広い活動をととして、社会的倫理観の醸成や社会貢献をととした職業観の確立を目指している。</p> <p>3)臨床検査技師国家試験の受験資格を得るためには、3年次に8週間に及ぶ臨地実習(病院や医療センター)が必修である。また、理科コースにおいて、中学校あるいは高等学校における教育実習が求められる。実習先では、実践をととして、それぞれの専門職種(知識・技能・職業的姿勢・職業的倫理観)などを学ぶことになり、まさに職業的自立を図るために必要な直接的な能力涵養の場となっている。ただし、現時点で教育実習については、まだ実習を受ける学生はいない。</p>	<p>＜根拠資料＞</p> <p>25-C4-2:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 該当科目のシラバス</li> <li>2) 学会へ参加を促すなどをしている。2022年 学会誌(藤田ゼミ)</li> <li>3) 臨地実習配置表</li> </ol>
<p>★項目(3) 4-3③「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>健康科学科における「DAITO BASIS」推奨科目は、「英語 A」「英語 B」である。配当年次は、それぞれ1年次である。その設定の事由は、「グローバルな視野で異文化を理解するためにも、アカデミックスキルの獲得は必至であり、国際言語としての英語に主眼を置いた」ということに起因する。</p>	
<p>★項目(3) 4-3④当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>初年次には、「フレッシュマンセミナーA」「フレッシュマンセミナーB」「基礎化学A」「基礎生物学A」など、リメディアル教育と2年次以降に学ぶ専門科目の基礎知識獲得に注視したカリキュラムとなっている。また、2年次からは、「臨床検査コース」「健康マネジメントコース」「理科コース」に分かれ、自身のキャリアに向けた専門教育が設置されている。3年次では、健康科学におけるインターンシップ、臨地実習、特別教育インターンシップ(課外)など、専門知識と社会を繋ぐカリキュラムが編成され、4年次の卒業論文作成へと段階的・系統的なカリキュラム編成となっている。</p>	
<p>◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>特に問題点はない。</p>	
<p>点検・評価項目(4)</p>	<p>4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>

評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9	
★項目(4) 4-4①履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。 (注:「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。)		
<回答> 1年間の履修単位数の上限(48単位)に、資格科目(教職・臨床検査技師・運動実践指導者・食品衛生監視員など)の単位数については含まない。また、副専攻科目の単位数は、1年間履修単位数の上限に含まない。単位の実質化を図る措置としては、必修科目と資格科目の重複設置を避けるなど、時間割配置上の配慮を取っている。		
★項目(4) 4-4②規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる(履修登録単位数の上限を超えることを承認した教授会議事録が必要)。とあります。この場合も単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。		
<回答> 本学科では、現在長期留学後帰国したのち入学を希望した学生の受け入れはない。		<根拠資料> <b>25-C4-3:</b> 該当事項なし
★(上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください。) ①諸資格科目(教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等)履修学生数:174人 ②長期海外留学終了者 学生数: 0人 ③編入生 学生数: 0人 ④転学部・転学科生 学生数: 0人		<根拠資料> <b>25-C4-4:</b> <b>2023年度健康科学科資格科目履修者一覧</b>
評価の視点2※	シラバスの内容(到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示)に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Webサイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」	
評価の視点3※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40シラバスチェック実施報告、B4-42シラバスチェック体制	
評価の視点4	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。	
★項目(4) 4-4③学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料(該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど)を用いて解説してください。		
(1)主体的な学び(演習、実習、フィールドワークなど)の事例		
<回答> 1年次配当(必修科目)「フレッシュマンセミナーA」「フレッシュマンセミナーB」、では、学生の主体的学びの場が担保できるようにアクティブラーニングを展開している。		<根拠資料> <b>25-C4-5:</b> ・フレッシュマンセミナーAシラバス ・フレッシュマンセミナーBシラバス
(2)インタラクティブ(双方向)な授業展開のための少人数授業の事例		
<回答> 3年生の「卒業研究演習」、4年生の「卒業研究」では、少人数によるゼミ活動をインタラクティブに展開している。		<根拠資料> <b>25-C4-6:</b> ・卒業研究演習シラバス ・卒業研究シラバス
(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例		
<回答> 1年次開講「フレッシュマンセミナーA」「フレッシュマンセミナーB」など、2年次開講「生化学実習」「栄養食品学実習」3年次開講「遺伝学D」などのグループワーク、実験等においては、主担当教員、助手と学生間で、ディスカッション、プレゼンテーションなどの機会を積極的に設けている。		<根拠資料> <b>25-C4-7:</b> ・該当科目のシラバス ・遺伝学D講義の資料(抜粋)
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例		
<回答> 3年次「卒業研究演習」4年次「卒業研究」のゼミ活動において、それぞれのゼミで活動テーマを設定し、「マラソン大会の医療ボランティア活動」、「SDGsプロジェクトへの参加」などを行って		<根拠資料> <b>25-C4-8:</b>

る。また、各ゼミ担当教員の専門とする国内外の学会への参加・発表についても積極的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度地域連携活動一覧(健康科学科)</li> <li>・学会誌の該当ページ</li> </ul>
<b>(5)効果的な授業方法について上記(1)~(4)以外の事例</b>	
<<回答>> 現時点では特になし。	<<根拠資料>> <b>25-C4-9 :</b> 該当資料なし
評価の視点 5	学習の進捗と学生の理解度の確認
<b>★項目(4) 4-4④授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。</b>	
<<回答>> Manaba を活用した授業後の小テストや単元ごとの課題提示、中間テストなど、知識の定着を形式的に捉えている。	
評価の視点 6 ※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 (履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している(オンラインも含む))。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合は Web サイトも→別紙の備考に URL 記入)
評価の視点 7 ※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス
<b>★項目(4) 4-4⑤オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。</b>	
<<回答>> Manaba を活用した課題の提示や、コメントを含む学生へのフィードバックを行うとともに、「学生による授業認識アンケート結果」、「教員による授業認識アンケート結果」、「学生による授業認識アンケート結果へのフィードバック」などをとおして提出課題の量的・質的適切性を担保している。	<<根拠資料>> <b>25-C4-10 :</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Manaba での課題提示画面</li> <li>・授業認識アンケート報告書(健康科学科)</li> </ul>
評価の視点 8	授業形態によって1授業あたりの学生数について配慮している。
<b>★項目(4) 4-4⑥授業形態(講義、実習、演習)によって、1授業当たりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。(例:演習科目、実習科目は少人数(原則10名以下)、大規模講義科目は原則200名まで、など)</b>	
<<回答>> 健康科学科における実習、演習科目については実験を伴う授業が大半であり、100名を上限としている。しかしながら、細菌を用いる「微生物学実習」などでは、安全性の確保から原則1クラス50名を上限としている。	
評価の視点 9	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みを実施している。
<b>★項目(4) 4-4⑦学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みについて、記述してください。</b>	
<<回答>> 特に国家試験対策として、チューター制度(スモールグループに教員が複数名担当を割り当て受け持つ制度)を導入して、国家試験の対策、疑問点の解消のための指導を行っている。対面式、オンラインなどのチューターとなる教員、学生の都合がつかう時間や方法で指導を行っている。国家試験模擬試験の結果により、学習指導が必要な場合には、チューターの指導、オンライン面談などを実施している。	<<根拠資料>> <b>25-C4-11 :</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューター分担表</li> <li>・認定試験の結果概要</li> </ul>
<b>◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。</b>	
<<回答>> Manaba、ZOOM でのオンラインを用いて個別指導をしている。現時点で、とくに問題としてあがっている事項なし。	
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
評価の視点 1 ※ <b>【基礎要件●】</b>	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位制度の趣旨に基づく単位認定</li> <li>・既修得単位認定等の適切な認定</li> <li>・GPA による成績評価</li> <li>・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置</li> <li>・卒業・修了要件の明示</li> </ul>

	<p>・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり  <a href="#">根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料</a></p>	
<p>評価の視点2※  <b>【基礎要件●】</b></p>	<p>学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】</li> <li>・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置</li> <li>・学位授与に係る責任体制及び手続の明示</li> <li>・適切な学位授与</li> <li>・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul> <p><a href="#">根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート 10,12</a></p>	
<p><b>◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。</b></p>		
<p>《回答》                  現状において特に問題点は存在しない。</p>		
<p>点検・評価項目(6)</p>	<p>4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>評価の視点1※  <b>【評価要件○】</b></p>	<p>学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。                  ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。  <a href="#">根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</a></p>	
<p>評価の視点2※  <b>【評価要件○】</b></p>	<p>学生の学習成果の測定方法を開発している。                  《学習成果の測定方法例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・テスト</li> <li>・ルーブリックを活用した測定</li> <li>・学習成果の測定を目的とした学生調査</li> <li>・卒業生、就職先への意見聴取</li> </ul> <p><a href="#">根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</a></p>	
<p><b>★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。</b></p>		
<p>《回答》  <b>学習成果の測定するための指標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. DPの積み上げ（2022年度から manaba に配布予定）</li> <li>2. 学修行動調査、卒業時アンケートなどの満足度等</li> <li>3. 学科の重要だと思ふ授業（必修や必修選択）を選び、それらだけのGPAで評価 ⇒基礎教育科目（必修11科目20単位）のGPA</li> <li>4. 学科等が発展的な内容で設定した科目を選び、それらを履修した単位数やGPAをみる⇒学科専門科目（必修14科目、26単位）のGPA</li> </ol> <p>臨床検査コース</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 卒業論文・卒業研究等の成果</li> <li>6. その他関連資格の 在学中試験平均合格率</li> <li>7. 臨床検査技師国家試験合格率</li> </ol> <p>健康マネジメントコース</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 健康マネジメントコース専門科目（コース必修 15 科目 27 単位）のGPA</li> <li>9. 卒業論文・卒業研究等の成果</li> <li>10. インターンシップ参加率</li> <li>11. 学生の成長実感・満足度調査アンケート結果</li> <li>12. 健康運動実践指導者 在学中試験合格率</li> <li>13. 公務員採用合格率</li> </ol> <p>理科コース</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. 理科コース専門科目（コース必修 20 科目 36 単位）のGPA</li> <li>15. 卒業論文・卒業研究等の成果</li> <li>16. ボランティア・課外活動への参加率（地域貢献を含む）</li> <li>17. 資格取得率（教員免許）</li> <li>18. その他諸資格取得率（危険物取扱者等）</li> <li>19. 教職採用試験合格率</li> <li>20. 進路の決定状況等（就職率、専門領域の就業率、進学率）</li> </ol>	<p>《根拠資料》  <b>25-C4-12：</b>  <b>「部局ごとの評価指標（2022-2025）」</b></p>	

<p>★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p><b>臨床検査コース</b> 臨床検査技師国家試験の合格率(2023年2月実施) 73.1% 遺伝子分析科学認定士（日本臨床検査同学院認定）（2022年6月実施）4名が合格。 心電図検定（日本不整脈心電図学会主催）4級5名、3級4名、2級1名が合格。</p> <p><b>健康マネジメントコース及び理科コース</b> これら2つのコースでは完成年度を迎えておらず、卒業生がいない。 そのため結果に該当する結果はない。</p>	<p>＜根拠資料＞</p> <p>25-C4-13： ・第69回臨床検査技師国家試験受験結果 ・学科ホームページ（遺伝子分析科学認定士試験結果） <a href="https://www.daito.ac.jp/education/sports_health_science/news/details_13_40094.html">https://www.daito.ac.jp/education/sports_health_science/news/details_13_40094.html</a> ・学科ホームページ（心電図検定試験結果） <a href="https://www.daito.ac.jp/education/sports_health_science/news/details_13_40310.html">https://www.daito.ac.jp/education/sports_health_science/news/details_13_40310.html</a></p>
<p>★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>現在は英語の学力測定は（CASEC）を用いている。これは日本英語検定協会が基礎開発を行ったもので、全国規模で英語能力を判定することができる客観的な試験であり、学習成果の評価として公平性もあり優れていると考えている。今後の課題としては、クラス編成の他への利用法をいかに工夫するかと言える。数学や化学、生物の試験の評価は、客観性は持っているが、行う試験のレベルがすべての学生に対して妥当かどうかの評価や実際に実施する試験の内容の工夫が今後の課題と言える。</p>	
<p>★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>分析を行うためには、判断基準、評価基準、指標の同一性が必要である。英語に関してはCASECの試験を利用している点で、標準化された項目、また試験結果の分析方法も実績があり英語検定との相関性もあるため長所と言える。数学などの分析をいかにするかが今後の課題となる。</p>	
<p>点検・評価項目(7)</p>	<p>4-7教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。</p>
<p>評価の視点1※ 【評価要件○】</p>	<p>適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について</p>
<p>評価の視点2 【評価要件○】</p>	<p>点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。</p>
<p>★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。</li> <li>「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。</li> <li>英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。</li> <li>論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。</li> </ul>	
<p>＜回答＞</p> <p>実績としては、国家試験模擬試験の結果の推移。 国家試験の合格率の推移では、新卒学生の合格率が全国平均と比較して低いのが現状であるため、国家試験模擬試験を活用して学生への学習、国家試験受験準備を指導している。</p>	<p>＜根拠資料＞</p> <p>25-C4-14： ・第69回臨床検査技師国家試験受験結果</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験模擬試験の日程表</li> <li>・国家試験模擬試験の教員分担表</li> </ul>
<p>★項目(7)4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p>	
<p>《回答》</p> <p>教育課程及びその内容、方法の自己点検・評価の結果については、そのプロセスを踏んでいる。また、学科における自己点検・評価の実施委員会を中心に、自己点検・自己評価活動シートの作成によって、定期的に本視点の基準や方法に準拠して、点検・評価を行っている。その中で本学科の課題としている学習成果の可視化への取り組みとして、実験的の一部の「卒業研究」に、ゼミ卒論評価ルーブリック表を導入した。また、卒業生と対面あるいはオンラインによって意見交換をできる場を設けるために学科独自のミニホームカミングデーを2021年度より実施し、併せてインタビューや参加した在校生のアンケートを実施した。</p>	<p>《根拠資料》</p> <p>25-C4-15： ミニホームカミングデー感想文</p>

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

<p>長所・特色</p>	<p>健康科学科として、3コース制の学生を受け入れ、各コースで学べる内容、取得できる資格などを学生に明示し、学びの範囲や魅力を示してきた。学生の適正を可能な限り把握して学生の希望や描く将来像へ近づけるように指導をすることが大切である。臨床検査コースにおいては、高度化する医療に対応するためより専門的な内容を教育しなければならない点や資格取得のためにならず国家試験に合格するという明確な目標があるため学生が初年次からスムーズなスタートを切ることができ、段階的な教育が受けられるようなカリキュラム編成を心がけている。講義と実習がセットにして、講義の後に実習を受けるような順番で座学と実習を有機的に結びつけるようなカリキュラム編成を行なっている。</p>
--------------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

<p>問題点・課題</p>	<p>3つのコースで今後学年が進行していくに連れて、各コース独自の学びが展開されることになる。本学科の場合は臨床検査技師の教育課程は実績やノウハウがあるが、それ以外のコースにおいては、各教員の経験によるところが大きいため、今後試行錯誤の部分が少なからずあるのが課題と言える。しかしながら教員の養成にかかる諸問題は、他学部で教員養成過程や教職センターに蓄積があるため、それらを有効に活用して学生指導にあたることで解消が可能であると考えている。また健康マネジメント分野での教育は、コース制をする前から少ないながらあったこともあり指導する学生数が増えたことに起因する問題が大きい。これまでの教育体制、予算配分の見直し、指導者の再配置など現状の教育資源、人員を最大限利用して対応していくことが大切であると考えている。</p>
---------------	--

IV 【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B票№ or 開始年度	改善計画 (アクションプラン)	内容 (改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2018-4III-1(4-7)	学修成果の測定方法の開発と実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・テスト</li> <li>・ルーブリックを活用した測定</li> <li>・学修成果の測定を目的とした学生調査</li> <li>・卒業生、就職先への意見聴取の検討・実施</li> </ul>	各項目の実施を25%とし、4項目実施で100%実施とする。	A(100%)：4項目全て実施 B(80%)：2～3項目実施 C(50%)：1項目実施 D(20%)：未実施	2022 未結果：D 2023：B 2024：B 2025：A
①	6	2023 (2022～継続)	(健康科学科) 臨床検査技師国家試験合格者の維持・向上	国家試験合格率向上のために、国家試験出題経験者をはじめとする外部の有識者による講義・演習を充実させる。また、成績不振学生に関しては、チューター制を導入、あるいは学生同士、高得点者が低得点者をフォローアップし合うグループ学習、アクティブ・ラーニングを積極的に推進させ基本的・応用的な臨床検査	3年次～4年次に校内・外部の国家試験模試を受験させているが、各回の成績の伸長度はもとより、総合的な本事業の評価指標としては、国家	A(100%)：国家試験合格率95%以上 B(80%)：国家試験合格率85%以上 C(50%)：国家試験合格率75%以上 D(20%)：国家試験合格率75%未満	2023：C 2024：C 2025：B 2026：B 2027：A 2028：A

				医学に関する知識とスキルの定着化を図る。	試験合格率である。		
①	7	2023 (2022～継続)	(健康科学科) 1年生向け英語外部テストの実施	全学的な規模での英語外部テストの導入が検討されていることを受け、健康科学科はこの流れを先取りして実施している。健康科学科では必修授業の「英語A・B」について、1年次に修得できず成績不振になるケースが非常に多い。これは学生の英語への苦手意識や、自分の学力を把握していないといった問題が含まれているため、入学時の現状を学生が知るといった意味で非常に有意義なものである。習熟度別クラス分けをする際に活用することを検討している。	入学時の CASEC の英語能力観点別評価と授業終了時における各能力観点別評価との相関、並びに伸長度を評価指標とする。	A(100%) : 習熟度コース全ての各能力観点評価の伸長度が 20%以上向上した。 B(80%) : 習熟度コース全ての各能力観点評価の伸長度が 10%以上向上した。 C(50%) : 習熟度コース全ての各能力観点評価の伸長度に向上は認められたものの有意な向上ではなかった。 D(20%) : 習熟度コース全ての各能力観点評価の伸長度に変化が認められなかった。	2023 : B 2024 : B 2025 : B 2026 : A 2027 : A
①	8	2023 (2022～継続)	(健康科学科) 健康科学を修学する上で必須となる化学・生物をはじめとする基礎科目のリメディアル教育の充実と正課カリキュラムとの連動	2017年度より開始したリメディアル教育を、更に細かいサポート体制で継続していく。入学者の学力に大きな差があることを受け、2023年度以降についても以下の流れでサポートを実施する。①学科独自の入学者向け事前課題の新規導入(英語・化学・生物)②入学時に試験を実施予定(数学・化学・生物)③本学科での修学において不可欠となる化学・生物の学力向上を目指し、外部講師(現役教員)を招聘し、授業を展開。④数学の学力向上を目指し、専任教員による補講授業を展開。⑤夏期補習講座の実施。この①～⑤の内容を、1年次前期必修科目「フレッシュマンセミナーA、B」との相互乗り入れにより、基礎学力向上を効果的に推し進める。	入学時の「英語・化学・生物」の学力試験を診断的評価指標とし、「フレッシュマンセミナーA、B」、並びに「関連教科」の評価を形成的、統括的評価と位置づけ、それぞれの基礎的な学力の伸長度から、2年次以降の各コースにおける専門知識獲得に対応できる基礎学力を充足したか否かを本事業の評価指標とする。	A(100%) : 各コースに進むほぼ全ての学生の必要基礎学力が充足している。 B(80%) : 各コースに進むほぼ全ての学生の必要基礎学力を満たしている。 C(50%) : 各コースに進む一部の学生の必要基礎学力に課題が見られる。 D(20%) : 各コースに進む多くの学生の必要基礎学力に課題が見られる。	2023 : C 2024 : C 2025 : B 2026 : B 2027 : A 2028 : A

## V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p><b>2022年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>臨床検査技師国家試験を受験する学生については、3年次より国家試験模擬テストを定期的に行い、その学力の測定評価(学内・学外)を適切に行い、その結果も学生、教員にフィードバックされて、国家試験に向けての重要な学修成果の可視化の指針となっている点は評価できる。ただし、それ以外の学生についてのアセスメント・テスト等は学科全体としては実施しておらず、臨床検査技師国家試験を受験する学生とそうではない学生の差異を埋めるためにも、臨床検査技師国家試験を受験しない学生も含めた、学科全体の学生の学修成果を可視化する方策を検討する必要があると思料する。</p> <p>2021年度に学習成果の評価指標を定めており、学位授与方針(DP)に示した学習成果の積み上げ(能力の積算)、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、GPAの評価、卒業論文の成績、退学率、就職率、留年率など、23の指標を設定している。活用としては、カリキュラムの検証、DPに示した学習成果(能力の積算)との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。</p>
---

**2023年度<所見>**

学位授与方針に学習成果（知識、技能、態度等）が学科独自の内容として HP 等で公表されており評価できる。

健康科学科としてカリキュラムツリー及びカリキュラムマップを HP で公表しており、学習成果と各授業科目との関係性、専門分野の学問体系、学習の順次性などが確認できる根拠資料として適切であると評価する。

1 授業あたりの適切な学生数の設定については、実習、演習科目については学科の特質上実験を伴う授業が大半であることから 100 名を上限とし、科目により安全性の確保から原則 1 クラス 50 名を上限とするなど配慮していることは評価できる。

学習成果の可視化への取り組みとして、実験的に一部の「卒業研究」にゼミ卒論評価ルーブリック表を導入したことは、他学科の参考ともなり得るので高く評価できる。今後の検証、評価が期待される。

国家試験の合格率の向上のためチューター教員を配置し各教員が工夫して指導しているが、客観的数値として合格率向上が顕著ではなかったという現状を踏まえ、これまでも行われてきていると思料するが今後一層多角的な分析を進めることが望まれる。一方、資格試験合格率の他にも貴学科では測定方法と評価指標として、インターン参加率、公務員採用合格率、進路の決定状況などを設定しているが、それらの測定結果について、言及がなく根拠資料も提出がなかったため、次年度は記述および根拠資料の提出をお願いする。

**◆評価の基準について**

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 (評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合)
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 (評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合)
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

**基準 4 教育課程・学習成果****【大学基準】**

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に

行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。